

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<https://kakio-kyoudo.jp.org/>

第 210 号

シリーズ

杉山神社 4

新たな視点で杉山神社を考える

岡田 誠治（郷土史研究家）

〔1〕 杉山神社を考える上での問題点

(5) 従来の視点では見えない重要な問題（5 番目の視点）

杉山神社研究にあたっての最も身近な基本資料は戸倉英太郎著『杉山神社考』、飯田俊郎著『私説杉山神社考』（以下『私説考』と表記）でしょうか。私のように市井の後学の者が杉山神社群への興味を保てたのは、両氏のご研究、ご苦勞の成果の賜物を目にすることができたお陰だと強く思います。私が本稿を書くにあたっては常にこの両書を参考にさせていただいています。

従来からの論点は前号で掲げた「本祠はどこか」「祭神は誰か」「式社はどこか」ですが、これに加えて何故社号を「杉山」というのか、という 4 点が主なものでした。この 4 点は両氏以外にも広く深く研究されてきました。しかし前話で述べたように、私はこの 4 つの論点のみに集中した探求では「古代の杉山神社」を論じ得ても、杉山神社群全体を語ることにはならないと強く考えています。

何故に 5 つ目の論点を考えなければならないのか。古くは白雉、白鳳といわれる 650 年頃から 670 年近辺の年に創建伝承を持った古い杉山神社がある一方で、川島杉山神社のように戦国時代の天文年間（1532～1555）に戦国武将北条氏康により創建されたという伝承を持つ新しい杉山神社があります。岸根杉山神社の創建伝承も後北条氏にかかわります。町田市金森杉山神社はそこからさらに約 150 年後、天和 5 年（1683）に徳川家旗本高木伊勢守により再建されたという記録を持つ杉山神社です。その間まさに 1000 年です。川島杉山神社の祭神は日本武尊と五十猛命、金森の 2 社の祭神は日本武尊です。この 1000 年の流れの中で、杉山神社草創期の忌部の神や出雲族の大ナムチ神との関わりを全く持たない杉山神社が新たに、または手をいれて祀り続けられてきたのです。古代、中世さらには近世に至ってもなお創建、再建されてきたのです。この「1000 年に渡る創建、再建」の事象は、「本祠はどこか」「祭神は誰か」「式社はどこか」「なぜ杉山神社というか」という 4 点を掲げて考究されてきた従来の杉山神社研究では全く論議の俎上に上らなかった事柄です。そこにはどこの神社から何という神様を勧請したという記録も記憶もありません。前時代の伝承とは全く脈絡のない、独立した由緒で創建されています。こういった事情にも関わらず、尚且つ「杉山神社」を社号として祀られてきました。

社号については、『杉山神社考』では「杉山神社という社号は、往昔杉の生い茂った山に此の神をお祭りしたから起こったのだらうと私は考える。一般に杉が林立する山を杉山といい、松があれば松山、桧が多ければ桧山という。その杉の木の叢林中に在します神社という意と解するのである。」という見解を示している。また『私説考』では、「（香久山の）鉾杉」、「三諸の神の神杉」、「石上布留の神杉」を例に掲げ、古代人の杉に対する深い信仰の念の存在を語っています。これらの見解に対して私は単純ながら重大な疑問を呈したいと思います。誰もが杉の巨樹、杉の叢林への畏敬を感じ、さらには普遍的な信仰心を持つというのであれば、また杉の叢林があれば杉山と称するというのであれば、杉山を冠する神社群は何故武蔵国の多摩川以南の地域に限って祀られたのでしょうか。多摩川以北の人々、また陸続きの相模国の人々は杉の木々に神威を感じる心は持たなかったのでしょうか。信仰心が湧くことはなかったのでしょうか。その地域には杉の山や杉の叢林地はなかったのでしょうか。また高名な神杉の存在をもってしても神社名となっておりません。

この疑問に対して、川島杉山神社の創建伝承は一つの大きなヒントと言えるかもしれません。この神社は二柱の神をまつります。一柱目「日本武尊」奉祀は北条氏康による戦勝祈願の神としてです。もう一柱の「五十猛命」は、氏康が長い戦乱による住民の困窮救済を目的に植林を奨励し、その為に祀った植林の神様です。木の神、植林の神は杉の木の靈威に通じるではないかとお考えの方々も多いでしょうが、伝わるどころの氏康の願いの真意は、人々の生活の営みへの直接的利益祈願です。杉の木に靈威を感じた故ではありません。七世紀半ば頃に始まったであろう杉山神社への信仰は、その実態が解らないまま約 1000 年の年月を重ねてきました。

このように時代が移り変わり祭神は変遷したにもかかわらず、統一社名「杉山神社」を以って 1000 年もの間祀られてきたこと、此れこそ重要な第 5 番目の視点とすべきと考えます。（続く）

シリーズ
禅寺丸柿の歴史 20

近代における川崎市域及び横浜市北部地域での果樹栽培(20)

相澤 雅雄(都筑・橘樹研究会会員)

禅寺丸柿の口碑について(2)

建保 2 年(1214)説の口碑は、明治 42 年(1909)の秋に禅寺丸柿が初めて愛知県の枇杷島市場(愛知県清須市)に共同出荷されることとなり、同市場の荷受人で神奈川県農事試験場の富樫常治技師と懇意であった青物果物問屋の村瀬儀兵衛から、その由来を求められ文章化されたものであろう。この翌年に神奈川県農会は、禅寺丸柿を枇杷島市場へ出荷に至った経緯、初めて取り組んだ共同出荷の方法、出荷の実績などを『神奈川県農会報 第五十六号』(神奈川県農会 同 43 年刊)に発表した。この中で建保 2 年説が冒頭に記述された。この口碑は、筆者が寓目した資料の中で最も詳細かつ古いものであった。この口碑は、同 44 年(1911)に廣田鉄五郎(花崖)と都筑郡農会幹事の谷本眞司が著した『甘柿禅寺丸栽培法』の中にも、次の通りほとんど同文が掲載された。

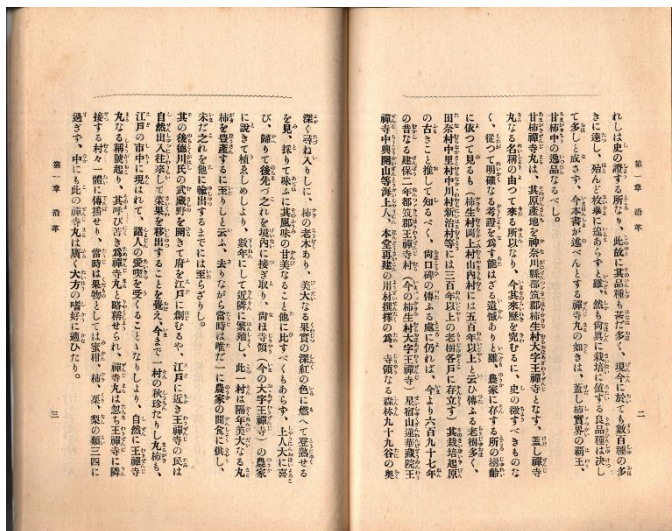
「建保二年都筑郡王禅寺村(今の柿生村大字王禅寺)星宿山蓮華蔵院王禅寺中興開山等海上人、本堂再建の用材選択の為、寺領なる森林九十九谷の奥深く尋ね入りしに、柿の老木あり、美大なる果實の深紅の色に燃へて登熟せるを見、採りて味ふに其風味の甘美なること他に比すべくもあらず、上人大に喜び、帰て後先づ之れを境内に接ぎ取り、尚ほ寺領(今の大字王禅寺)の農家に説きて植ゑしめしより、數年にして近隣に繁殖し、此一村は隔年美大なる丸柿を豊産するに至りしと云ふ、去りながら當時は唯だ一に農家の間食に供し、未だ之れを他に輸出するまでには至らざりし」

この文章は、廣田鉄五郎が執筆したものとみなして間違えないであろう。口碑について執筆の経緯を『甘柿禅寺丸栽培法』の自序で語っている。明治 43 年の秋に病床中の廣田鉄五郎のもとに谷本眞司が突然訪ねて来た。昨年秋に禅寺丸柿を枇杷島市場に共同出荷したところ大変に好評で、名声もあがった。この影響で都筑郡農会には、手紙での照会や実地調査に出かけてこられる人たちが多くなった。そこで、この機会に『甘柿禅寺丸栽培法』というタイトルの本を出せば、世間のために大いに役に立つであろう。廣田鉄五郎は、即座に快諾したという。谷本眞司は資料集めに奔放し、廣田鉄五郎が病を押して執筆した。共著としたのは、この関係によるものであろう。原稿が完成するまでは、神奈川県農事試験場長本間啓太郎博士に校閲の手を煩わし、また都筑郡農会技手の野本謙一と都筑郡視学五十川民蔵にも手助けしてもらった。初版本は、同 44 年 6 月 25 日に有隣堂(東京市京橋区南伝馬町)からだされた。本書は大阪の心斎橋筋にある文海堂で特約販売された。他に東京の丸善書店をはじめとして、全国 62 店舗の書店で扱われた。この有隣堂は、果樹栽培書を数多く出版していた。本書の巻末には 37 種類の園芸図書の目録を掲載していることからわかる。『甘柿禅寺丸栽培法』は、どうも重版はされなかったようである。その要因として、禅寺丸柿の栽培地が都筑郡に限定していたことから、販売冊数の大きな伸びにつながらなかったものと考えられる。

廣田鉄五郎は同書の中で「今其来歴を究むるに、史の徴すべきものなく、従って明確なる考證を為す能はざる遺憾ありと雖、農家に存する所の樹齡に依って見るも(柿生村岡上村山内村には五百年以上と云ひ傳ふる老樹多く、田奈村中里村新治村等には三百年以上の老樹各戸に存立す)其栽培起原の古きこと推して知るべく」と、史料を探したがどうしても見いだせなかったもので、老樹からその起原の古さを推測したといっている。

建保 2 年説の流れを整理すると、村瀬儀兵衛から求められ由来書が作成され、次いで神奈川県農会が『神奈川県農会報 第五十六号』に発表した禅寺丸柿の枇杷島市場への出荷経緯及びその方法などの中に口碑を掲載した。その直後に出版された『甘柿禅寺丸栽培法』の中にも、同じ文章がそのまま使われた。

(続く)



建保 2 年(1214)説の口碑を載せる
『甘柿禅寺丸栽培法』(1911 年刊)

シリーズ
歴史の中の女性像

その 1 補遺 国際赤十字運動について

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

フローレンス・ナイチンゲールと国際赤十字運動

赤十字と聞けば、誰でも知っていますね。日本赤十字社は日赤の略称で通じます。正式名称赤十字国際委員会(略称 ICRC)は、1863 年に創設されたスイスのジュネーブに本部を置く団体です。現在は 2 万人以上の職員が 100 カ国以上に広がった職場で働いている巨大組織です。

赤十字国際委員会の創設者は、スイス人実業家のアンリ・デュナンです。デュナンは 1859 年、計画中の事業への協力を求めて、産業界の支援に熱心なフランス皇帝ナポレオン 3 世の面識を得ようと、北イタリアのソルフェリーノにやってきました。ナポレオン 3 世統治下のフランスがサルディーニャ王国に加担して、共にオーストリアと戦ったイタリア統一戦争で最大の激戦地となったのが、ロンバルディア平原のソルフェリーノでした。僅か 1 日の戦闘で、両軍合わせて 4 万人近い死傷者を出した激戦でした。間の悪いことにデュナンは、この戦いに迷い込んでしまったのです。彼は辛くも近くの教会に避難することが出来、そこで村の女たちと共に負傷者の介護に当たりました。新聞で読んだミス・ナイチンゲールの働きに感銘を受けていたデュナンは、敵方のオーストリア兵も区別なく救護したのです。

3 年後 1862 年に、デュナンはこの時の体験を『ソルフェリーノの思い出』として出版。戦傷者や犠牲者に対する支援について、二つのことを提案します。一つは、戦傷者や戦病者を敵・味方を区別せずに救護するため、平時から救護団体を各国に組織すること。もう一つは、戦時下の救護者や負傷者などを保護するために、国際条約を結んでおくなど各国の同意をえることでした。この提案に賛成した人達の手で、翌 1863 年に後に赤十字国際委員会に発展する組織が誕生、各国に赤十字社が誕生して行く流れが出来たのです。二つ目の提案も、1864 年にジュネーブ条約(赤十字条約とも呼ばれます)として実現を見ます。日本の赤十字社は 1877(明治 10)年西南戦争の際に博愛社として誕生し、86(明治 19)年にジュネーブ条約に加盟、翌年日本赤十字社に改名しています。

ところでミス・ナイチンゲールと国際赤十字運動とはどのような関係にあったのでしょうか。運動の揺籃期は 1860 年代前半です。まだフローレンスが自宅での療養中心の生活に入る前ですから、赤十字運動にかかわりを持つことは十分可能な時期でした。しかし、フローレンスは赤十字社の活動には距離を置き、一切かかわろうとはしませんでした。彼女は「ボランティアに基づく救護団体の常設組織は、設立できたとしても長続きすることは難しい」、「構成員の自己犠牲や奉仕の精神のみに頼る援助活動ではなく、公的機関などの経済的支援を取り付けた組織でなければ、息の長い活動はできない」として、デュナンらの活動を評価しなかったのです。イギリスの超上流階級に属し、女王とも親交を結び、政府にも知己の多いフローレンスにとって、公的支援を取り付ける道はいくらでもあったからこそその考えとも言えます。フローレンスには中産階級や下層階級の人々は、まさに自己犠牲を伴うボランティアとしてしか、善意に基づく貧者救援の活動が出来なかった現実への理解が十分ではなかったように思えます。実はこの点は、1910 年のフローレンスの死から 13 日後に生を受けたマザー・テレサにも共通する弱点です。テレサは 38 歳となった 1948 年から修道会の許可の下に、コルカタ(旧名カルカッタ)のスラムに住み続け、最下層の人々の側に立った活動を続けました。そんなテレサもまた修道会という大きなバックがあったからこそできた活動だとして、しっかりしたバックをもたないボランティア活動は、長く続かないと否定的にとらえていたのです。

デュナンはどうなったでしょう。1864 年に 12 カ国が参加してジュネーブ条約が誕生するなど、デュナンの活動は順調だったのですが、1865 年に事業で躰いたのをきっかけに、2 年後の 67 年デュナンは多額の借金を抱えて破産します。当然赤十字の活動からも身をひかざるを得なくなります。以後ジュネーブを離れたデュナンは、欧州各地を転々とする日々を送ります。1887 年体調を崩したデュナンは、スイス東北部ハイデンに移り、1892 年から 1910 年に死去するまでの 18 年間は、ハイデン公立病院の一室で生活しています。そんなデュナンの名が再びクローズアップされたのは、1895 年に地方紙の記者がデュナンの居所を突きとめ、取材記事を大きく掲載したからでした。デュナンの退場後、赤十字国際委員会の活動は少しずつ成長していましたから、赤十字運動の生みの親の発見は、大きなスクープとなり、再びデュナンに脚光が当たったのです。こうして 1901 年の第 1 回ノーベル平和賞はアンリ・デュナンに授与されることになったのです。その後もデュナンは、ノーベル賞の賞金には一切手を付けず、赤貧の暮らしを続けたのです。彼が 1910 年 10 月 30 日 82 歳で亡くなった時、ノーベル賞の賞金はほぼ手付かず残されており、遺言によりスイスとノルウェーの赤十字社に寄付されました。この事実が貴賓と呼ばれる人たちに強い感銘を与え、ここから赤十字運動に各国の王族が加わるようになり、赤十字運動の基盤は盤石のものになっていったのです。

ミス・ナイチンゲールは赤十字運動には一切関わらなかったのですが、赤十字社の基金は、全てフローレンス・ナイチンゲール基金と名付けられ、世界各地の看護師 50 名を隔年ごとに選んで記章を手渡して表彰する制度は、フローレンス・ナイチンゲール紀章と呼ばれているのです。国際赤十字運動に距離を置き、何らかのかかわりを持たなかったミス・ナイチンゲールの名が、なぜ国際赤十字運動の中心で輝いているのでしょうか。それは運動の産みの親、アンリ・デュナンが、ミス・ナイチンゲールを心から尊敬し、彼女のクリミア戦争での行動を見習って、私は活動を続けていると話し続けていたからなのです。ミス・ナイチンゲールの名と共に国際赤十字運動があることは、デュナンの願いだったのです。因みに「世界赤十字デー」の 5 月 8 日は、デュナンの誕生日を選んで制定されました。

『文久二・三年王禅寺村御用留記帳』を読む — 5 —

飛田 三枝子(柿生郷土史料館専門委員)

4頁は「今朝、和田倉御門内辺にて重き御役人へ対し乱妨及び逃げ去りそうろうものこれあり、せいぜい探索、召し捕り方致すべき」という御達しの写しで始まっている。

追^{おってがき}而書まで合わせて読むと、乱妨人共は立派なようすの百姓・町人の姿に変装して逃げているので、旅籠屋・茶屋また江戸からの出口にあたる村は特に注意するようにとある。差出し人は幕府直轄領・藩領・旗本領・寺社領の区別なく関東一円の治安を取り締まっていた関東取締出役。出役の木村誠一郎に「ほか御用無印」とあるのは、ほかの御用のため印を押していないという意味だから、もう一人の出役内山左一郎の下には押印があったのかもしれない。

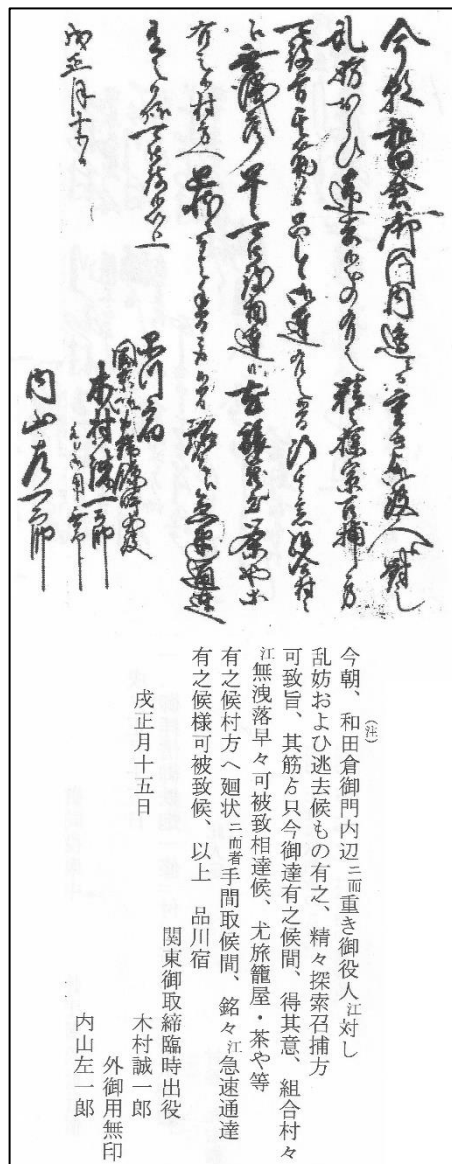
廻状には「刻付けをもって早々」に順達せよ、とある。刻付けとは時刻を記すことで、「酉ノ中刻出」とは村から廻状を出した時刻のこと。15日朝の事件についての廻状は出役からその日のうちに触頭の中目黒村へ届き、それを中目黒村は酉ノ中刻(午後7時)に出し、王禅寺村は「川和村より受取(『御用留記帳』のこの箇所の活字は小文字とすべきでした)」16日未ノ上刻(午前8時)に石川村へ継いだ。廻状は5頁の村順通りに、中目黒村→碑文谷村→衾村→小杉村→川和村と運ばれたのだろう。すると村々は夜を徹して廻状を継いだと分かる。

急ぐ理由は乱妨人達が逃げているからでしょう。村に2番目に届いた知らせは白根村が18日に出したもののだが、そこでも乱妨人はおよそ10人で、6人はお供の家来に殺され、逃げた1人には「突き疵一ヶ所」あるので「薬湯か医業」の方をとくと探索し召し捕るようにとある。刀疵には温泉療治がある。白根村は増上寺領ではなく、これは通知なので村継ぎはしていない。

そしてこれが何の事件かは最後6頁の「聞き書き控え」でやっと分かる。「聞き書き」とあるが、人名など正確に書いているので瓦版等を写しているのではないだろうか。

書いた日付は無いが、次頁の記事が24日だからその前と思われる。「重き御役人」とは「御老中安藤対馬守様に御坐候、少々御怪我御座候」これは老中首座の安藤対馬守信正が登城途中、水戸浪士などに襲われた坂下門外の変のことである。実際は2年前の桜田門外の変以後、老中達は嚴重な警護態勢をとっており、さらに「乱妨人」が6人と少なかったため、全員その場で斬殺され、逃げた者はいなかった。

(『文久二年・三年王禅寺村御用留記帳』は当史料館で販売中。千円)



『御用留記帳』 部分

柿生郷土史料館友の会 16回史跡見学バスの旅 参加者募集

申込締切：11月10日(月)

大磯への旅

～関東最初の海水浴場と元老たちの隠れ家を訪ねて～
日時 2025年11月26日(水)

- ◆集合：7時50分 新百合丘駅北口(21ビル前)
- ◆解散：18時頃 新百合丘駅 その後柿生駅近く
- ◆申し込み：往復はがきに必要事項を記入の上、柿生郷土史料館まで
または marat17930713@mail.fcservice.jp まで、メールで
- ◆必要事項：参加者全員の郵便番号、住所、氏名、年齢、連絡先電話番号
- ◆送付先：215-0021 川崎市麻生区上麻生6-40-1 柿生中学校内 柿生郷土史料館へ
(お近くの史料館支援委員にお渡しいただいても結構です)
- ◆募集：45名(最低催行人数30名)
- ◆参加費：9,000円(昼食付き)

柿生郷土史料館 開館日のご案内 【参加自由、入場無料】

- ◎開館日：11月2・16・23日(日曜日) 12月6・13・20日(土曜日)
- ◎開館時間：午前10時～午後3時